

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【海老沼小学校】

| | |
|----------|-----------------|
| ⑥ | 次年度への課題と授業改善策 |
| 知識・技能 | 次年度に向けて (3月) |
| 思考・判断・表現 | 年度末評価 (2月) |

| | | |
|----------|--|---|
| ① | 今年度の課題と授業改善策 | |
| | 学習上・指導上の課題 | 授業改善策【評価方法】 |
| 知識・技能 | <p><学習上の課題> 算数「数と式」の乗除法や小数・分数の問題で誤答する児童の割合が高い</p> <p><指導上の課題> 児童の実態を正確に把握し、反復・習熟させるための時間を授業内で確保することが難しい</p> | ⇒ 授業内で定着の度合いを確認して実態をとらえながら、あゆみタイム(朝自習)の時間に学習進度に合わせた予習・復習に取り組む。計画的に「スタディサプリ」や「ドリルパーク」に取り組む【月3～4回程度】 |
| 思考・判断・表現 | <p><学習上の課題> 根拠となる部分を引用し、自分の考えを具体的に書き表すことが難しい児童が多い</p> <p><指導上の課題> 児童が必要感をもって課題に向き合い、自らの考えを他者に伝え、自己・他者評価を通して肯定的な経験をすることが少ない</p> | ⇒ 日常の中で必要感のある設問を設定しつつ、ICT機器の共同編集機能などを活用しながら協動的な学びにつながる活動を取り入れていく【単元の中で1～2時間程度実施】 |

| | | | |
|----------|-------|--|------------|
| ⑤ | 評価(※) | 調査結果 | 授業改善策の達成状況 |
| 知識・技能 | | ①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) | 職員会議・校内研修等 |
| 思考・判断・表現 | | | 結果提供(2月) |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

| | | |
|----------|---|--|
| ② | 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察) | |
| 知識・技能 | 国語では熟語や漢字そのものの定着が不十分で、新出の語句を丁寧に指導し、語彙力を高める取組が必要であると考えられる。算数においては、四則計算のうち、除法の誤答が多く計算方法を正しく身に付けられていないほか、表とグラフでも見方がわからず、数値を正しく読み取ることが難しい児童が見られる。基礎的な知識・技能については国語や算数だけの時間だけでなく、社会をはじめ他教科とのかわりから必要感の高い資料などを扱い、正確な数値の読み方や変化の様子をとらえられるよう意図的にくり返し指導する機会を設ける。日々取り組んでいる授業や宿題でも、基礎的計算力や語彙力を高められるような取組(計算ドリルや読書活動、意味調べなど)を大切にしたい。 | |
| 思考・判断・表現 | 国語では物語内での登場人物の心情を読み取ることや説明文での筆者の考え(要点)を適切にまとめて表すことができていない。算数では箱の中に入る球のイメージが先行してしまい、その奥にある問われていることの本質をとらえることができていなかったり、分かっているもそれを正しい計算で解答を導き出せなかったりしていた。どちらの教科にも共通している傾向は、記述する問題に苦手がかり、長い文章題を目の前にすると、そもそも最初から解答することをあきらめてしまう無回答の児童も一定数あり、改善すべき点である。文章の解読や苦手の克服には読書の機会を多くもったり、普段の授業から同型の問題に取り組んだりする「慣れ」が必要だと感じる。 | |

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

| | |
|----------|--------------------------|
| ④ | さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察) |
| 知識・技能 | |
| 思考・判断・表現 | |

| | | | |
|----------|-----------------|--|--|
| ③ | 分析共有(児童生徒の実態把握) | 中間期報告 | 中間期見直し |
| | 評価(※) | 授業改善策の達成状況 | 授業改善策【評価方法】 |
| 知識・技能 | C | 朝自習の時間確保はできているものの、基礎・基本の定着を図り、多くの児童に身に付けさせたという段階にはまだ達していない。今後も継続して取組を続けていき、定期的に定着の度合いを測っていく | 学校課題研究の中で次の2点に取り組んでいる。 ①効果的な適用問題の取り入れ方を実践、協議して授業に活用する。 ②問題の量や質について考えつつ、反復させる。【毎時間5分間程度】 |
| 思考・判断・表現 | B | 必要感のある設問の設定や表現力の向上をねらったICT機器の効果的な活動は一定の効果を見せていることが児童の意識調査からもわかる。一方でイメージを膨らませる、予想し、比較することが苦手な児童が一定数いることがわかってきた。 | 現在行っている取組を授業内で引き続き実施するとともに、思考の深まりや想像し、表現する力の向上のために、読書や読み取った内容を他者に伝える活動、読み聞かせ活動の実施機会を確保する。【週1回実施】 |

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)